はじめに

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長　松　村　直　人

平成31（令和元）年度は第Ⅲ期の中期目標・中期計画の４年目であり，フィールドサイエンスセンター（FSC）の目標として，「講習・生涯教育等の実施を通して地域の自治体・企業との連携を強化し，連携事業件数をⅡ期より20％増加する」が掲げられている．また，練習船「勢水丸」の目標は「共同利用拠点機能の強化により，他大学との共同利用を拡大する」である．昨年度の具体的な実施予定項目は，「FSCの現在の実施状況と他大学の実施状況を把握し，地域の自治体・企業との連携強化を図る」および「練習船の現在の実施状況と他大学の実施状況を把握し，大学間共同利用の推進方策を検討する」であった．

年々教職員数が減っているにも拘らず，従来のミッションである本学学生の高等教育と研究に加えての数値目標を設定した目標・計画であるため，教職員が一丸となった一層の努力と合理化が求められている訳であるが，各施設とも十分な成果を挙げられたと考えている．

農場では，学内および三重短期大学生に開放した「生物資源学A（土は生きている）」を引き続き開講するとともに，近隣小・中学生を対象とした「教育ファーム」を実施した．さらに，生涯教育の一環として地域住民を対象とした「大学ファーム楽農講座」を開講している．演習林では「自然科学概論（森は生きている）」で三重短期大学との共同利用を図るとともに，全国農学系学部における単位互換協定に基づき，「森林総合実習」で他大学学生を受け入れて共同利用を推進している．また，津市の森林・自然アカデミー事業や地域の木材祭りへの出品など，地域貢献活動にも寄与している．附属練習船「勢水丸」は２期目の共同利用拠点申請が認められ，引き続き名古屋大学など多くの大学生の実習教育を担当しており，共同利用の申込大学数も増加している．また，拠点化に伴うシンポジウムや食文化プログラムなども開催し，多くの参加者から好評を得た．

本学学生の教育や研究業務に加え，これら共同利用や社会貢献活動を強化するためには，教職員それぞれが自らの置かれた立場を理解して協力しあい，目標達成に向けて努力することが重要である．教職員間の相互理解・協力体制を強化し，これまで以上の合理的運営・活動を推進する必要性を強く感じている．

最後に，皆様方にフィールド教育・研究の重要性についての更なる御理解と御支援をお願いするとともに，本書の発行に御尽力頂いた各位に感謝する次第である．